

平成30年度 第2回府中市子ども・子育て審議会議事録

▽日 時 平成30年7月26日（木） 午後2時～

▽会 場 府中市役所 北庁舎3階 第4会議室

▽出席者 委員側 会長、平田副会長、宮前委員、山崎委員、臼井委員、植松委員、木下委員、栗原委員、酒井委員、高橋委員、田中委員、仲委員、中田委員、畑山委員、藁田委員（15名）

事務局側 沼尻子ども家庭部長、柏木子ども家庭部次長、二村子育て支援課子ども政策担当主幹、市ノ川子育て支援課主幹、吉本保育支援課長補佐、古塩児童青少年課長、松本児童青少年課長補佐、横道健康推進課長、堀江教育部次長、長嶋保育支援課管理係長、横山保育支援課支援計画係長、須田保育支援課認定給付係長、三宅児童青少年課放課後児童係長、若山子育て支援課推進係長、隅内子育て支援課推進係職員、河野子育て支援課推進係職員（16名）

株式会社浜銀総合研究所、株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所

▽欠席者 二瓶委員、山下委員、工藤委員、芝辻委員、木嶋委員（5名）

▽傍聴者 なし

事務局

それでは皆様よろしいでしょうか。若干遅れてみえる委員さんもいらっしゃるようですが、定刻となりましたので、進めさせていただければと思います。改めまして、皆様こんにちは。委員の皆様におかれましてはお忙しい本審議会にご出席をいただき誠にありがとうございます。府中市子ども・子育て審議会を開催いたします。まず資料の確認をさせていただきます。

（※事務局 資料確認）

それでは事務局より3点ご報告させていただきます。1点目、本日の委員の出欠状況についてです。本日欠席のご連絡をいただいている委員につきましては、二瓶委員、工藤委員、芝辻委員、山下委員、木嶋委員の5名でございます。尚、本日の会議は委員20名のうち15名の委員にお集まりいただいております。出席委員数が過半数に達しておりますので府中市子ども・子育て審議会条例第8条第2項に基づき有効に成立することをご報告させていただきます。2点目、本日の審議会の傍聴についてでございます。府中市附属機関等の会議の公開に関する規則により、7月11日号の広報ふちゅう、および市のホームページで募集しましたが、応募はございませんでしたので、ご承知おきください。3点目、本日の審議会の時間配分についてです。議題の(1)を20分程度、議題(2)を30分程

度、議題(3)を60分程度とし、会議終了時間は午後4時頃を予定しておりますので、ご協力をお願いいたします。尚、本年度計画と基本方針の策定にあたり、調査のとりまとめ、資料、議事録の作成など、本審議会の側面的支援をお願いしている事業者が出席しております。こちらからご紹介をさせていただきます。府中市子ども・子育て支援事業計画策定業務に関しましては株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所、府中市子どもの未来応援基本方針策定に関しましては、株式会社浜銀総合研究所をお願いしております。事業者の概要につきましては、お手元の参考資料をご参照いただければと思います。それでは株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所から順に自己紹介をお願いいたします。

【次第1 開会】

(※事業者挨拶)

事務局

それではこれより議題の方に移らせていただきたいと思います。申し訳ございません、本日会場の都合でマイクが1本しかご用意できておりません。マイクの受け渡しについてなるべくスムーズに行えるように配慮いたしますので、マイクのご使用についてご協力をよろしくをお願いいたします。恐縮ですが、事務局の方はマイクが1本しかない都合がございますので、マイクなしで声量大きめに説明をしていただければと思います。申し訳ございません。それではここからの進行については会長の方をお願いをしたいと思いますので、会長お願いいたします。

会長

皆様お暑い中、どうもご苦労様です。実は私は今、岡山とか広島の方に行ってまして、なかなか大変です。簡単には治まりそうもないというか、真備町なんかでも、幼稚園、保育園、なかなか行けていないということで実際はやられていないとか、家族でそういう人がいるために動けないとか、大変な状況が続いていますね。私達に何かそれで支援できることはないのかということ。今は仕方がない状況だそうですけども、同時に考えさせられたのは、あれと同じ大規模な雨が東京で起きたらどうなるか試算している人がいましてね、荒川が仮に決壊したとなった場合には、たぶん被害総額は60数兆円という、3.11よりも、もっとひどい規模の被害になるっていうのが、計算で出ていますね。だから地震とかと違って雨みたいなのはあまりピンとこないのですが、実は下手をすると凄まじい被害になるんですよね。事前に準備をしておかないということですね。だから、こういう時代になったら、ものの考え方を少し変えなきゃいけない。いつか起こるかもしれないと考えを変えなきゃいけないのかもしれないですね。とにかく色々考えさせられることが多くありました。今日は3つ議題がございまして、よろしくをお願いいたします。

【次第 1 議題（1）府中市子ども・子育て審議会放課後対策部会について】

会長

それでは進めていきたいと思えます。議題は3つございます。最初の議題は府中市子ども・子育て支援審議会放課後対策部会でございます。事務局の方からご説明をお願いいたします。

事務局

それでは、府中市子ども・子育て支援審議会放課後対策部会につきましてご説明させていただきます。恐れ入りますが資料の5をお願いいたします。本件につきましては、本年第1回府中市子ども・子育て支援審議会において府中市における放課後子ども総合プランの推進について諮問をいたしましたところ、関係の皆様で構成する部会を設置し、審議をすることとなったことから、府中市子ども審議会条例第9条の規定に基づき、部会を設置、本年7月13日金曜日に第1回目の会議を開催したものでございます。委員につきましては資料に記載の通り、本会委員および臨時委員の合計6名でございまして、任期は諮問事項にかかる調査審議が終了するまでとなっております。また、部会長には学識経験者の方で白梅学園大学子ども学部家族・地域支援学科専任講師の牧野晶哲氏が、また副部会長には府中市青少年対策浅間地区委員会委員長の伊藤仁氏が選任されております。第1回目の放課後対策部会における議題でございますが、1点目として会議の公開や傍聴についての確認、2点目として諮問事項についての確認、3点目として国が策定した放課後子ども総合プランの概要ならびに進捗状況について、4点目として、本市の放課後対策事業の状況について、最後5点目として、今後の会議の開催予定と進行について、ございました。第2回目の会議につきましては、8月28日火曜日に開催の予定となっておりますが、放課後対策部会では年内に合計5回の会議を開催し、府中市における放課後子ども総合プランの推進にかかる今後の方針を答申の案として、とりまとめることとしております。以上で説明を終わらせていただきます、よろしく願いいたします。

会長

ありがとうございました。今のご説明に対して何かご質問等はございますか。委員の方から今の説明に何か補足がございますか。

委員

今、事務局さんの方で話しのあった通りの内容で、公募市民の方が色々と放課後子ども教室の詳細、そして府中市の学童保育のあり方などの質問が多く出て、活発に進められたのでとてもよかったと思えます。

会長

こういうところではよく幼児とか、子育てをしている家庭の支援ということがテーマ

になるのですが、小学校に行った子ども達以降についてはなかなか議論する場所がない、それも中学生あたりは放課後いったいどうしているのだろうということになりますよね。府中市としてはぜひ、子どもと言っても別に幼児だけではございませんのでね。彼らが放課後生活を充実させるためにどうあればいいのかということをご議論していただきたいと思っています。最後にこの牧野先生ですが、この方は大変珍しいですが、スクールソーシャルワーカーの養成をされている先生です。スクールカウンセラーは皆さんご存知だと思うのですが、実はアメリカあたりでは、たとえば学校に来ない子ども達がたくさんいたとして、それは家庭が背景にあり、その家庭の後ろには両親の育ちだとか環境だとか失業しているのか、アメリカの場合は麻薬だとか色々ありますよね。多くの子どもに対する支援というのを、学校の担任がやっていると、それだけで何かエネルギーが全部取られてしまうというようなことで、実際に就職支援やらそういうことをやるっていうのはなかなか1人では難しいので、それでソーシャルワーカーという形で学校に常駐して、そういう家庭を本気になって支援していくということをやって、それでコラボしていかないと無理だとなってきた、それで生まれたのがこのスクールソーシャルワーカーです。ソーシャルワーカーがそういうふうに出ているのは、元々メディカルソーシャルワーカーというのがあるのですが、今では学校にソーシャルワーカーを置いていかないと対応できないと、国の方もどんどん方針を発展させてきています。そのスクールソーシャルワーカーの養成をやっているところって少ないのですが、白梅学園大学でやっています、その先生なんですね。ですから、元々そういうことを自分でもやっていた方ですので、また府中市のために少しがんばっていただきたいと私も思いました。成果に期待したいと思います。

【次第2 議題(2) 府中市子ども・子育て支援事業計画策定に係る審議会スケジュールについて】

会長

では特にならなければ、次の議題に移りますがよろしいですか。それでは2番目の議題です。府中市子ども子育て支援事業策定にかかる審議会のスケジュールについてやります。事務局からまた説明をお願いいたします。

(※事務局 資料6「府中市子ども・子育て支援事業計画策定に係る審議会スケジュールについて」を説明)

会長

どうもありがとうございました。これはこれから策定する子ども・子育て支援事業の計画策定にかかわる審議会のスケジュールということですが、2年かけてこれから計画を策定し答申としてまとめていくという、そのための段取りですが、何かご意見、ご質問はございますか。ちょっとお尋ねしますけれども、この子ども・子育て会議は計画策定と

というのは大変な仕事なのですが、それ以外に府中市の子ども達のためにこういうことをやったらどうかねと、自由に議論していきたいと思っていて、行政が考えていることをしっかり基礎を固めるというのは当然大事なのですが、同時に色々な関係者に集まっていたいていますので、こういうことも始めてみたらどうかね、とここで少し案の基本みたいなものを練るということをやりたいとは思っているんですが、そういうことのスケジュールじゃなくて計画策定のスケジュールですね。

事務局

あくまでも計画策定のスケジュールです。

会長

それ以外のことをやるなって言っているわけじゃないですね。それだけ確認できればいいです。あの、あらかじめですね、前もって、前回もお話しをいただいたのですが、副会長は幼稚園関係の中心メンバーでいらっしゃるのですが、実は国の方ではですね、都内で今日も本会議をやっていますけれども、日本の教育を、わかりやすく言えば、21世紀バージョンに変えていきたいんですね。強い希望がありまして、小学校は平成32年から本格的に変わるはずなんですね。幼稚園と保育所は今年から始まっています。特に保育所の場合は、ずいぶん数を増やさないといけない、府中市はあいかわらずかなり待機児童がいるので、数についてはそれなりにやって、まだまだ不十分な段階だとは思いますが、数については一所懸命やっているんですよ。ところが、普通に考えたら、数が増えるということは、たとえば100人定員のところを120人定員でやってくれというようなことになるわけですよ。そうすると、それにふさわしく環境を整えとか、場所を広くするとか先生を増やすとかやっていかない限り、質は確実に落ちるわけですよ。10人みていたのが12人みてくださいますとなると、確実にほっといたら質は落ちるわけですね。それを増やすためには質が落ちないようにするためには、もっとお金を使わなきゃいけないということになってですね。そこまでやれているかということ、実は必ずしもやれていないんですね。そのためにこの6月から文科省と厚労省と別々に保育の質を向上させるための検討会というのが始まったんですね、幼稚園は幼稚園、保育所は保育所であっているわけですね、その答申が大体今年末にはまとまります。それが出た場合にそれを受けて、府中市で数を増やしていくのだけれども、幼稚園も2歳児の扱いがもう正式に始まることになっています。そうなればなるほど、教育領域が広がっていく、それから教育対象も増えていくとなればなるほど、実は質をどういうふうに確保し、上げていくのかということ、これは正味の課題となっていきますね。そういうのをどうするかということ、これを議論する場所はたぶんここしかないんですね。ですから、そういう国の色々な動きに連動させながら、府中市の保育の質、それから放課後の確保ですね、活動の質をどう上げていくかというのは全部リンクしていると思いますから、そういうことを少し私はここで議論できればなと思っておりまして、提案をさせていただきますけれども、よろしいですか。お願いしたい。あらかじめ、そういうことも議論したいんだということだけ申し上げておきます。事務局とは全然何の打ち合わせもしていません。何を言い出

したんだと思っているかもしれませんが、大変なことをやるんだ、みたいに思うのも大事なことだと思うので。それでは特にこのことについて議論がないようでしたら先へ進みますが、よろしいでしょうか。

【次第2 議題(3) 子どもの生活実態調査の概要及び調査票案について】

会長

それでは議題の3番目、これは結構時間をかけたいと思っています。子どもの生活実態調査の概要と調査票についてやります。最初に事務局から説明をお願いいたします。

(※事務局 資料7「子どもの生活実態調査の概要」について説明)

会長

はい、どうもありがとうございました。この種の調査っていうのは、最近始まったばかりだと思うんですね。貧困率っていうのを国が出していたのは、1960年代の中頃迄で、そのあと豊かになったということで出さなくなったんですね、データとしては。それで、いや、やはりそうではない、ということで出し始めたのはごく最近ですから。ということで、貧困問題というのは現代社会の色々な課題を解決していくには、大事な窓口と言いますか、枠組みになっていまして、その実態を調査しようということで、大変大事な基本的な調査だと思うんです。ただ、貧困というのは、ここに収入とございますけれども、収入のこともあるんですが、世帯収入がありますよね、簡単に説明だけさせていただきますと、貧困というのが相対的貧困というのがありますけれども、日本人の働いている人の給料を一番安い人から一番高い人まで全部理論上並べるわけですね。8000万人働いていたら8000万人になるけど、そのうちの中央値、つまり4000万人目の人の給料が基準になって、その半分以下しかない場合が貧困になるわけですね。例えば我が家では3人が働いているという場合には、その3人の収入を合計して、 $\sqrt{3}$ で割ります。4人だったら $\sqrt{4}$ 、つまり半分ですね、家計を一緒にすると、水道だったら水道光熱費は一緒に使うので、そういう計算で計式上は $\sqrt{3}$ 、 $\sqrt{2}$ となりますね、それでその家族が全体の真ん中の半分以下、現在だと大体年間収入で百十何万ですか、これ以下の人が貧困になります。ですから、相当経済的には大変で、東京あたりで百何万で暮らすのは普通考えられないですよ。家賃払っていったらそれだけで吹っ飛んでしまう話で、でも、沖縄なんか行くと、そういう人だらけですね。フルタイムで働いていますけど9万円とか、どうやって暮らしているんだっていうぐらい、そういう人はいっぱいいます。だから沖縄は、貧困層は3割を超えているみたいですね。全国で貧困層と言われているのは14、15%ですから、それは経済的な貧困で、それがきっかけで実は文化的なこと、子どもで言ったら絵本なんか読んでもらったことないよとかね、連休にどっか連れてってもらったことないよとか、体験そのものが貧困だとか、親にゆとりがないために関わりも貧困、命令指示ばかりになってしまってますね。そうやって、子どもが大事な時に、豊かな愛情体験を育くまな

きやいけない時に、それが貧困化している。つまり愛情体験に貧困だとか、そういうのがどんどん膨らんでいくことによって、理想願望が下がって行って、学校で勉強が始まってもわからないことが出ても、いいよ俺なんてことになっていくと、学力の貧困問題にリンクしていくという、そういういろんな形で現在の社会の大きな社会問題を解くときのキーワードみたいになっているんだというのがですね、それを放置することは本来優れた人材なのかもしれない人達が社会的に排除されてしまうことになりますから、社会的には大損失なんですよね。ということで、この人達を必死になって応援するにはどうしたらいいのか、お金を差し上げればいいのか、そういうわけでも単純にはなさそうだと、ということで、実態を調べて、どういうふうな課題があるのかということ、どこに論点があるのかということを確認にすることということで、行われる調査ですね。今日はちょっと議論していただきたいのは、これを見ていただいて、今のご説明を受けた目で、もう少しこういう項目を入れたらどうかとかですね、この項目は誰が担うとか、そういうご意見をちょっと積極的に出していただければと思っています。初めて見て急に意見をとんでも困ると思うので、終わった後にまたメールその他では受け付けたいと思いますが、さしあたりここで気が付いたことをお話しいただければと思います。

委員

よろしくお願ひします。一度聞いたかもしれないのですが、もう一度、どうして小学5年生と、中学2年生を選んだかということ、教えてほしいのが1つと、あと普段の生活の間1と問2で起床時間と就寝時間が問われているんですけども、これを1つの回答者でちゃんと合わせて睡眠時間をどれぐらい取れるかというのを計算されるのかということと、あとこの小学生の方の間22の次のような活動で普段どのくらい時間を使いますかというので、ゲームで遊ぶというのとテレビを見るというのがあるんですけども、たとえばテレビを見るが、たとえば朝、朝食の時間に情報番組というか、ああいうのを見ながら食べていて、それに大体30分から1時間はいつも見ている、夜もまた見るよってなると、2時間以上っていうのはあつという間に、今テレビっていつもバラエティって長い時間でやるので、その2時間っていうのが、もうちょっと限りに3時間以上とか、4時間とかいう枠があってもいいのかなというの、Aと、あとBのメールやインターネットというところで、中学生ぐらいになると、たとえばラインとかでやり続けて終わらすことができない子どもっていうのも多いと思うので、もうちょっと深く状況が聞けるように、長い時間というような項目を作った方がいいのかなと思ったんですけども、いかがでしょうか、すみません。

事務局

それではご質問いただいた項目についてまずお答えさせていただきたいと存じます。まず対象の小学5年生と中学2年生でございますが、市の方で支援していく対象として、まず中学生年代までのところをメインのターゲットとさせていただいております。その中で直接アンケート調査をさせていただくとなりますと、未就学の方はアンケートにまず答えられないというところで、小学生になりますけれど、小学校低学年よりは高学年

の5年生のところで、また5年生の方に聞く中でも、その過去の経験という部分もそこで聞いていければという中で、把握していければという考え方でございます。その5年生と2年生という中途半端なところなのではございますけれども、最終学年ですと受験等々で忙しいというところもありますので、1つ前というところでございます。

それから、起床時間と就寝時間から睡眠時間の計算というところ、計算すればある程度は出るかと思うのですが、現在の調査項目自体が若干時間に幅がありますので、正確な時間は出ないような感じになろうかとは思っております。それと時間の設定の方が、2時間が最大になっているところでございますけれども、こちらの方が都とか区の調査をベースにしております、最大2時間程度という説明になっているかと思っておりますけれども、そこをベースに合わせてしているということでございます。皆様からのご意見を踏まえまして検討させていただけたらと思います。

会長

よろしいですか、5年生、2年生というのは大体、小学生、中学生の人が小さな子ども達は答えられない、6年生はもう中学生みたいになっているということで、小学生を代表するので5年生で、ただちゃんと書いてくれるのは5年生じゃないかということで5年生なんですね。中学生の場合は、1年生はまだなっただけ、3年生はもう半分切る、受験とかもあるので、2年生が一番中学生の実態を示してもらえないんじゃないかということで、5・2でやるというのが多いですね。本当はね、たくさんサンプル採れるんだったら、1年生、3年生との違いも見える方が、ここで変わるんだねとかやったらいいんですけども、そこまではとても大規模な調査になりますから、当然やるのであればという限定はあります。

委員

よろしく願いいたします。些細なことなのではございますけれども、ちょっとLGBTの動きがある中で、あなたの性別を教えてくださいというところで男子と女子しかないんですけども、中学校2年生ぐらいになると、性別に違和感があるとか、そういうたぶん自覚的な方もいらっしゃるかなと思って、私が知っている団体なんかは空欄を作っておいて、男か女か空欄を選べるとか、そういう選択肢も用意しているんですけども、その辺の配慮はいかがでしょうか。

事務局

だいぶ難しい問題での問題提起をありがとうございます。調査票を設計している段階でも、それについての配慮を考えるべきという議論にはなっています。その中で、2のアンケート調査というところで、ご本人が認識されている性別というところでご記入いただきたいという趣旨で市で示させていただくという状況でございます。

会長

それはそうじゃなくて、自分がどっちか迷って書けない人はどうするんですか、とい

う質問だと思います。

事務局

この調査ではどちらかしか記述できない形に現在ではなっておりますので、そこらへんは空欄を設けるという手法もあろうかと思っておりますので、今回でのご意見をふまえて考えていければと考えてございます。

会長

これは色んなアンケート調査でこれから男か女に丸を付けろというのは単純ではなくなってくるということで、ではどういうアンケートの項目の作り方があるのかということ、ここを少し調べていただいて。今の例は自分で書けてやつですか。

委員

自分で書くのも、この場合だとこの2つの選択肢でいくのであれば、生物学的な性別を教えてくださいってした方がふさわしいのかなと思います。

会長

生物学的な性別を教えてくださいと、わざわざそういうことを書かなきゃいけないということは時代なんですね。実際、私どものところに来られた相談というのは、保育士さんなんだけども、やはりLGBT、トランスジェンダーで、体は女性なんだけども、心は男性で大変苦しんでいて、カミングアウトしてみんなには認めてもらったんだけど、親御さんにそのことを言う時にどうしたらいいか、相談を受けました。そういうのはもう私達の身近に出てくるので、ようやく言えるようになったということなんですけどね。そういう時代に今はなっているのですけれども、苦しんでいる人はまだ苦しんでいますから。差別にならないようにしなきゃいけないですね。はい、ありがとうございます。ちょっとそれも考えていかないとね、そういうことは結構ですから、どんどんお願いします。

事務局

この調査票の書き方で配慮が必要な部分もあろうかと思っておりますけれども、また案として示させていただきましたものはご本人が該当すると判断されるところに丸をという形になっていきますので、どちらでもないということで記入しないという方法も方法としてはあり得るという調査の形にはなっています。すみません、失礼いたしました。

会長

そのニュアンスが伝わるように、どちらにも当てはまらない場合は書かなくてもいいということをどこかに記載する。宮前さんがおっしゃるように。そうやってどんどん言ってください。大々的に書き直すことはできるとは限らないですけどね。お願いします。

会長

それではご意見が出ないようなので、あれですけれども、学校の勉強がよくわからないという質問はどれでしたかね。小学生ですね、ごめんなさい。10 ページのところに、問 30 がありますね、小学生の枠の上ですが、授業がわからない時は、いつもわからない、大体わかる、理解程度を聞く質問で、わからないことが多い場合は、いつ頃からというのがサブクエスチョンであります。そのあと、補習授業についてなんです、授業の話になっているんですが、実はですね、ここにできたらもう一つ質問を付け加えていただけないかなというのがあります。それはですね、文言、文面はちょっと工夫していただきたいんですが、原因帰属についての調査なんです、もし学校の勉強がよくわからなくなってきたとしたら、その理由は次のうちどれですかというので、4 つ選択肢を入れているんですが、実は私これをやったことある調査なんです、1 番、自分の頭が悪いから、露骨にそういう風に聞いてみた、2 番目は、自分の努力が足りないから、3 番目は先生の教え方が親切じゃないから、4 番目はそもそもこの学年でこんなことをさせるのが無茶だから。言葉はちょっと選んでいただきたいんですが、私、それを自分の娘が行っている小学校の全員、4、5、6 年生でしたか、300 人にやったことがあります。驚くべき結果でした。アメリカ人と一緒にやったんですがね。学校の勉強がわからない時、それはどのせいかと言って、自分の頭が悪いからと言ったのは数%、学校の先生の教え方がよくないと言ったのが数%、そしてそもそもこの学年でこんなことやるのが意味ないっていう、それは難しすぎるっていう、それが数%で、80 数%が自分の努力が足りないからと書きました。つまり学校の勉強がわからないのは俺が悪いんだよってみんな思っているんですね。これはね、一緒にシンガポールの小学校で教えていてアメリカへ帰る途中だった人がね、それを作った時にアメリカの学校では全く、たとえばシンガポールでこれと同じアンケートを取ったら、100%ここに書くって言うんですね、どこに書くと思いますか？シンガポールの小学生は？先生の教え方が悪いというところに丸を付けるんです。そのために金をもらって給料をもらってやっているのに俺らがわからないように教えるとは何事だよって、はっきり割り切って書く。その民族性っていうか、国民の価値観の違いっていうか、教育観の違いなのかね、アメリカでは逆に自分の努力が足りないからだというふうに答えてくれる人を増やそうと必死なんです。そしたらもっと勉強してくれるから。ところが、ちょっとしかいない。他のところは全部、アメリカは頭が良いからともうやらないから、もうそれでやらないわけです。逆に言うと日本人は、本当は授業が下手だからかもしれないしね、そもそも、この学年でこういうことやってよくわからないという義務教育内容の問題もあるんだろうけれども、だけど、それは私が宿題をやってこないからとか、自分が一所懸命聞いてないからとか、そうやって自分のせいにしてしまう。自分のせいにするっていうことは、やっている方としては都合がいいんですね、先生の教え方が下手だと言うのはおおごとになるから、だけど、冷静に見たら、どんな子だってわかるように教えるのが義務教育じゃないか。責任を誰に求めるか、原因を誰に求めるのかによってずいぶん国民性が違うっていうことがあって、私に、貧困で学校の勉強がよくわからなくなっているっていう子ども達が、それはね、何でって、俺がだってやらないからだよって思っているからだとしたら、貧困の悲劇みたいになっちゃいますよね。だから

ら、分析は難しいんですけども、それはさっきの調査で国際的にやってみようかっていうので、国によってこんなに違うっていうのをある程度思ったことがあったんですよ。聞き方はもうちょっと丁寧にやらないといけないと思うんですけど、そういうのをもう1つ、30のところくらいに、30かな、何か入れると、貧困という状態に置かれている子ども達の発想の仕方っていうのがね、ちょっと自己罰、自己懲罰的になって、いけないかどうかってあたりですね。高校生で、色々問題を起こす時に結局、私が悪いんでしょう、私が悪いんでしょうっていうのがすごく多いっていうのが、私がだめだからだよっていうのがね。それから逆にそれを裏返して、あいつが悪いからと、責任を他者にするか、全部自分にするかって、どっちか2つしかいねえっていう。びっくりしたのはプロレスラーの大仁田厚さん、彼は高校に通っていた時に、何でこいつら自分を責めるか人を責めるかどっちかしかしねえのかっていうね、朝日新聞か何かに書いていまして、非常に鋭く、雑誌世界っていう本に書いたら、大仁田厚がえらく感動していました。大仁田はよく書いてくれたと。要するに冷静に言うと、もっと自分が悪いか他者が悪いかだけじゃないわけですよ、関係の中にもっといろんな視点がなきゃいけないのに、自罰か他罰かですよ、どうもそういう育て方とか教育文化というのがあるように、日本の中にはあって、自分もやはり課題があるけれども、もう少しこういう環境にあればっていうふうな認識になってくれることが望ましいと思うんですがね。ちなみに言うと、日本の場合義務教育って言っても小学校で公立学校行っても年間、給食だとか遠足費だとか何かで30万円ぐらい金がかかっている、平均で見たら。世界で最も高いです。スウェーデンなんか行ったら、消しゴムから鉛筆から全部支給ですからお金がかからないんですよ、ですから貧困問題っていうのは、実はそういうことの支援が十分でないために、2倍か3倍してしまうっていう問題が日本の場合はあるんですよ。だから、そういう配慮、援助っていうのが全くない中で自分が非常にみじめになってしまうっていう、そういうことが、最終的にそれは自分が甲斐性ないからだとか、自分がちゃんとそれをやらないからと自分を責めてしまうというのは、そういう精神構造というのは、どう問題にするかって言いたいです。

論点は、そういう形でもっとこういう形で調べられないかとかですね、あればどうぞ出して、反映できるかどうかちょっとわかりませんがね。

委員

今、会長のお話を聞いて思ったんですけども、こういう実態調査を細かく聞きやすいようにいろいろ苦労してやるんですけども、さっき会長がお話しされたように大胆に、議論してもらいたいんですけども、子どもって、自分が今幸せだと思っているかどうかというようなことも、簡潔に聞いてみるというのもいいのかなと、子ども達の実感、どう思っているのか。自分は貧困の世帯なんだけど、本人は全然思っていないとかそういうこともあるので、自分が今幸せかどうかということも、そういうのも大胆に聞いてみるというのもおもしろいのかなというふうに思ったんですけども。

会長

問 33 あたりで少しそれも、聞きたいのもあるんですが、そこに何か付け加えればということになりますかね。この問 33 から 34 のあたりは、いわゆる自尊感情、自己肯定感的なものを聞いているところ、これはとてもおもしろいと思います。僕はこれ同じように、これはちょっと細かいこといっぱいやっているんですけども、それで自分にはいいところがあると思うとか、たとえば、一番おもしろかったのは、幽霊はいると思うか、みたいな。小学校 5 年生、中学校 2 年生、高校 2 年生でやってみたんですけども、幽霊はいると思うっていうのは、高校生になれば、上になればなるほど、いると思うっていうのが増えるんです。だから、科学的なことを勉強すれば、いや幽霊なんて本当はいるわけがないんだよっていうふうが増えるかと思ったら、高校生が一番いると思うっていうのが多いんです。今の子ども達の精神状態っていうのはそういう何ていうか、根っこにすごい不安がある。だから、自分が生きているということのリアリティというんでしょうかね。明日も確実に生きているっていう、貧しいと一所懸命働いて、ようやく収穫ができた、今日は一所懸命働いた、お仕事できたっていうのが生きているリアリティがあるわけですよ。そんなのは 1 人でできて、自分が確かに生きているっていう、実感をどこで手に入れるかっていうことはとても難しくなるというんですかね。だからネットで必死になって関係を作るんだけど、全部表面的なもので本当の自分の生きる喜びに簡単につながらなくて、ネットにつながればつながるほど孤独感が強くなる。というようなことが起こるわけ。文明で何でも機械だとか何かして、みんな直接知り合いと関わったり人と関わったりして、やっとできたっていうことが、どんどん減ってきている中で、生きている喜びとかリアリティというのをどこで感じるんだろうというのが頭の中であって、色々調べてみたら、幽霊なんていうのは、上へ行けば行くほど信じる人が多い。何かそういうオカルト的なものだとか、そういうものを信じたくなるような、心情というのは、よくわかります。本当はだから、そういうのはいい意味での宗教も必要になるかもしれない。でも日本はそのようにはなっていない。だからいかに欲求、心の快樂をつかむっていうのはとても難しいですよ。

委員

37、33、34 をもう少し簡潔に、というのもいいのかなと、書きやすいように簡潔にただ質問してみるのがいいのかなというふうに思いました。

会長

あなたは今幸せですかという感じでね。

委員

委員さんの話をお聞きして思ったんですけども、貧困感に絡んで、簡潔でという中でお金という言葉をちょっと出して、これで聞いてみるのもいいのかなと。お金があれば幸せだと思うとか。金額とかもあると思うんですけども、普段貧困で食事代とかも大変な子もいると思うので、お金が解決すると思っているかどうかみたいなのも簡潔

に聞いてみたらどうかな、と思います。

会長

その33あたりを簡潔だけじゃなくてそういうダイレクトな質問ももうちょっと入れてみたらどうかという、そういうご意見だと思います。お金があれば幸せになれると思うかどうか、これは難しいですね。

委員

すみません。私は普段、学習支援とか母子家庭の方とかも関わっているんですけども、1つ興味があるのは、問の33番のところの、小学校と中学校のお子さまのところですけども、Cのところ、自分は家族に大事にされていると思うということと、その真逆に自分は家族を大事にしているっていうふうにも両方ちょっと入れてもらえたらいいかなと思います。これはすごく貧困と思われるご家庭で色々とギャップがあったりするものですから、そのことをアンケートに入れられたらと思って、興味があるので意見として出させていただきます。

会長

自分にとって家族っていうのはどういう存在かっていうところを聞いているところが今のところ、何かありますか。

委員

今のご質問とは別な質問なんですけれど、問の35番のところ、あなたは家族のことなどで何か困っていることや嫌なことがありますかという質問のところなんですけど、この中で、その他のところで書くのがいいかなというところはあるんですけども、家族からDVを受けているというような場合の表記の仕方っていうのが、あったらいいのかなと。訪問で、私は在宅訪問をしているんですけども、その中から児童の虐待とかっていうところが見受けられることも、ちらりとあるんですね、その時に子どもがそれを訴える場所っていうのがやはりあった方がよいのかなと思って、そういうところでチェックが入ると察知しやすいのかなということがありまして、そこは表記をしてもらえたらいいのかなと思います。

会長

2番目、問35の2で親が厳しすぎるとかというのでなくて、もっと。

委員

具体的な、何か身体的なとかの理由とかがあったらいいのかなと。

委員

たとえばDVという書き方か、たとえば親からはたかれることがあるとか具体的なこ

とで示してもいいのかなと。

会長

親からよくたたかれるとか。家庭内暴力というか虐待のところの定義では、ネグレクトだとか、いわゆる身体的暴力というのはカテゴライズされているんですけどね、貧困と虐待がつながるケースがあるっていうことですよね。つながってないかどうかっていうことを調べるためにはもう少しはっきりと暴力を受けているとか、おこづかいをもらえないとか、食事を与えられないとかいう欄とか、何かそういうようなことを書いておいておけばいいのかなと。虐待と貧困との関連性。

委員

そのつながるところでもあるかなと。

会長

はい。どうぞ。

委員

今回の調査では貧困との強い相関を分析するような傾向もあるなと思ったんですけど、実は富裕層世帯も何か闇があるんじゃないかなと思っていて、そういう切り口で、今、設問を変える必要はないと思うんですけども、お金はあるけれども自己肯定感が低いとか、そういう切り口で調査結果が見えたらいいなと今思っています。

会長

貧困調査なんですけれども、貧困というのは日本の場合は、世界に対応せず、経済的な貧困ということを経済的にやっつけているんですよ。ただ貧困というカテゴリーを必要な経験が極めて不十分にしか得られないという問題だと定義しますとね、たとえば外で全然遊んだことがない、遊べないってというのは、今の子ども達はそれだけで貧困なんですよね。お金はあるけれども本当に愛されているなという、実感が得られたことがないってというような、そういうお金持ちの子どもはね、精神的貧困という問題もあって、ですからちょっと広げて経済的な貧困以外の貧困というものを体験する子ども達のことっていうのは少し浮かび上がらせられるかってそういうことですね。何か具体的にその例がありますか。

委員

そうですね、おこづかいの額と保護者と接する時間、お小遣いの額は多いけれども、保護者と過ごす時間が極端に少ないということがありますか、今具体的には思いつかないんですけども。

会長

統計の分析の時に、おこづかいっていう指標があって、親子間の接触時間という指標と、子どもの幸福感という指標を全部クロスさせて、意外とおこづかいをたくさんもらっていると時間が少なくて幸福感が低いとかね。そんなのが出てくるんじゃないかとかね。ダイレクトにそういうことを聞かれているなというふうにあまり質問はしない方がいいというのがあるね。あとで、統計上の操作によってそれが出てくるという方が、導いている感じがするでしょ。余計にそう書いてあるって思っちゃうっていうのがあるって、実態とちょっと離れるから。だからアンケートってあんまりこういうことを明らかにしようとしたなっていうふうにしなくておくところも、残しておかなきゃいけない。何のためにこれを聞いているのかわからないことがあちこち入っているのがアンケートとしてはリアル。はい、ではお願いします。

委員

まず、質問の中で中学生でも小学生でも、9ページのところで、これは細かい話からさせていただきたいんですが、問26、あなたの成績はクラスの中でどのくらいだと思いますかということですが、今はクラスの中での比較云々ではなくなっています。自分として理解できているのかどうかといったところがベストです。相対評価でもないですから、こういった部分については授業がわかるかわからないとか、自分の立ち位置の基準が他人にあるということは違うんじゃないかなと思います。したがってここら辺の質問を少し工夫された方がいいかなと思うことが第1点です。第2点は、子ども達は彼らの中で学校生活はもうほとんどなのですから、学校生活のことを聞かれるわけですが、それが保護者とのアンケートのリンクの中で、たとえば経済的に貧困だった家庭の子どもが部活動の満足度が高いかどうかというのはクロス集計がどの程度できるのかなと思います。たとえば習い事に行かれないだとかは、リンクはしやすいと思うのですが、授業の理解度とそういった貧困の部分とのクロス集計をどのようにやられるご予定なのか、やる以上は予想があった話だと思うので、その辺がちょっとどのような形かなというのを教えていただきたいなということ、それと、もう1点は子ども達に学校生活のことを聞いているのがほとんどで、保護者に対しては学校生活への期待感みたいなものは聞かれていないんですね。たとえば学校での大きな課題は、家庭学習といったものをがんばってやってほしいということを学校の現場では子ども達に伝えるんですが、残念ながら家庭での学習習慣がない、そういったことに保護者はあまり興味関心を示さない、そういったことから学習の理解度が思うように上がっていかないということもあると思います。そうすると、保護者の方にも家庭学習は重要だと思うとか、そういったことについて意識を持って取り組みたいとか、そういうようなところがあると、クロス集計をする時にも、何か役に立つのではないかなと思っています。以上です。

会長

最初の方のご意見は今の子ども達はいわゆる相対評価というものが少しずつ減っていますよね。5・4・3・2・1っていう意識がなくなっているみたいですね。こういう質

問の仕方ですよ、今問 30、問 26、そうするとやや上の方が真ん中あたりか、イメージ的にはわかりやすいんですけども、こういう発想では見ていないっていう子ども達もいるっていうことですよ。だから、授業がよくわかっているかわかってないか、そういう感じの方が実際は感じ方に近いんじゃないかっていうことですよ。保護者がそういう子どもの理解度とか授業とかそういうのに対してどれだけ関心を持っているか、貧困の問題がはっきり出てくるかということ、そのことを調べられるようにしていただきたいと思いました。では、お願いします。

委員

子どもの方の 10 ページの学校の授業がわからないことがありますかということなんですけど、9 ページの方で学校の授業は、いわゆる 5 科目と 5 科目以外って、分けて聞いているところがあるんですけども、こちらのページだと学校の授業というふうに漠然としていて、あと子どもって苦手と得意ってある子が多いと思うんで、苦手科目がありますかっていうことと、得意科目ありますかっていうのをまず聞いて、苦手科目に関していつからわからなくなったかっていうふうに聞いてあげた方が、子どもが答えやすいのではないかなと思います。

会長

たとえばそれは、25 をもう少し書き方を変えるとか。

委員

問 25 はこれでいいと思うんですけども、問 30 の学校の授業で、全部授業をわかる子ってそんなになくて、たとえば数学は嫌い、できないけど、国語はできるわよ、とかある中で苦手科目というのに関してわからないとか、補習しなきゃとかという意味だと思うので、そういうふうに。

会長

問 30 の聞き方がこのままではちょっと書きづらいんじゃないかっていうことですよ。得意科目だったらわかるよと。苦手科目だったらよくわからないけど。中 2 なんか特にね、数学なんか全然わかんねえっていうね、社会科好きだよとかってありますからね。どういうふうに書きますか。そうすると、ここがちょっと変わってくるんだよね。僕が自分で質問を作った時には、学校でもし授業を聞いていても、宿題をやっているって、それでも授業の内容がよくわからない、そういうことが起こったとしたら、それは次のうちのせいでしょかって。はっきりと宿題やっているよ、授業真面目に聞いているよって、でも何かよくわかんないんだよなって。それは、考え方っていうか、実態じゃなくて考え方って言い方ですけどね。ちょっと科目を少し絞ったりなんかして、得意科目だったり、苦手科目がありますかって、そのあと苦手科目についてとかともうちょっと何か限定しないと答えにくいんじゃないかってことですよ。そういった形で、もうちょっとぽっと見ていきます。今の山崎委員のご質問と関連して問 25 のね、A、B っていうのはもし厳

密に言うとそれを答えにくいことになりますよね。主要5科目について聞いていて、とても楽しみ、楽しみってね、英語嫌いだよとかね、国語は好きだけどとか、数学嫌いだってって、これどう答えりゃいいんですかね。それからBは、それ以外の体育は好きだけど音楽は嫌いとかね、そういうのがわからない。それよりもこのA、Bってそもそも聞いてそれをあとで活かせるんですかね、何か。これで、例えば貧困の問題とこの主要科目が関係あるとか、それがうまくでるのかな。もうちょっとその辺は検討していただきたいと思います。

では、時間もあるので、もう一回ちょっと確認しながら進めていきたいと思いますが、このお願いのところですね、最初の表書きのところは大丈夫ですか。おうちの方に見せる必要はありませんから、大きな封筒に入れて、名前は書かないでくださいということを書いてあります。それから、答えたくない質問は答えなくてもいいですよ、それから答えは○か文章で書いてくださいって、それから指示に従って書いてくださいってということが書いてあって、質問はここに出してくださいって書いてあります。それで最初、フェイスシートのところですね、お話は今、男子女子については1つだけ選ぶってこと、起床時間、就寝時間、生活習慣、食事習慣、朝ごはん食べない人の理由、そういった孤食については夕ごはんだけを、あとは食習慣でどれを食べていますかって、自分の健康状態に対する自覚、その次は友人関係について聞いています。4ページにいくと、仲の良い友達、どこで得た友達なのかということですね、ただし、それは1つだけ。それは一番仲が良い友達と書いています。これは経験値として、一番仲が良い友達以外にどういうところで友達を作ったかというのを調べることもあるんですがね、その場合は質問した側ということですが、一番仲の良い友達。それから、今困っていることや誰かに相談したいことについて、これは当てはまる番号はそれで良いと思います。6番にはその他がありますので、これ以外のことも書けるようになっていきます。問12は人間関係が中心ですけども、よく友達と、あるいは親しい大人かもしれませんが、こんなことをよく話していますか、どういうことに関心を持っていて、どういうことを話題にすることが多いかっていうことですね。これは家族についてはものすごく細かく分けていますね。親、兄弟、お祖父ちゃん、お祖母ちゃん、それから学校の先生、文化センターの職員、地域の大人の方。これはなんでこんな細かく分けているんだろう。それは細かく書いたら細かなのが出てくるんですよ。アンケートっていうのは出てきているのは分析で使われていないようなのはなるべく減らしていくっていう。問13は自分が誰を尊敬しているかということですね。そのあとは幼少期について、どういうふうな体験があるかということですね。それから夢があるか、どこの学校まで行きたいかっていう進学希望、6ページからは持ち物とか、欲しいものとか、こういうものがあるといいな、という項目ですね。質問は非常に、欲しいものじゃなくて、持っているもの、所有しているものですね。それから無い場合は欲しいか欲しくないか。それから文具や教材が買えないことがありますかと、これは貧困アンケートだからね。その次が、過ごし方ですね。誰と過ごしているかと夜9時ぐらいの間どういう生活をしているかということですね。場所について聞いています。自分の家かどうか、それからあなたが平日の午後にあなたが過ごしている場所は、あなたにとって一番良い場所はどこかってことですね、これは1つだけ選びます。居場所について

の調査ですか。8ページはどのような活動をやっているか、生活行為のパターンを聞いています。ぱっとこうやって見てもらって、もうちょっとこういう項目を入れたらどうかとかないですか。それから本をどのくらい読んどるかという項目、部活動についての調査、そして学校での関心等ですね。何が学校で一番関心があるか。それから成績、どのくらいと自覚しているか、塾に行っているかどうか、あるいは家庭教師に来てもらっているかどうか、勉強時間はどのくらいか、しないって場合は理由を聞いています。10ページに勉強がわからない時に誰に教えてもらっているか、聞いているかという調査。問30はわからないことがありますか、わからないことがありますって言ったら、これはあるって言ったら誰でもあるかもしれないってのがありますけどね、その辺が苦手科目調査なのかってことになりますので。それから補修授業に参加しているかの調査、そして11ページでは不登校危惧というか、いじめ体験とかそういうことがあるか。それから自己評価というんでしょうかね、自己感情、自分についてどう思っているかということについての調査。それからメンタルヘルス、意欲、自主性、自分の性格だとか人柄についてどう思っているかっていう、そして最後のページには家族のことで困っていることがないかっていうこと、それからこういう場所があればいいなっていう、そういう。何か思っていることやこれを入れたらどうか、ということがあれば。どうぞ。

委員

すみません、調査時期がもう8月から9月ということで夏休み明けになるかと思うんですけれども、よくよく見ると平日のことがほとんど調査項目なので、子ども達が1学期のことを思い出してちゃんと書いてくれるのか、ちょっと心配だなということと、あと貧困の子は、ちょっと勝手な思い込みかもしれないんですけれども、平日は学校に居場所があって給食も食べて帰って来られるけれども、夏休みにどういう生活をしていたのかなんてというのが心配に思いますので、ちょっと休日に関しても質問というか、休日の居場所というか、その辺も書いた方が、あった方がよりわかるのかなと思います。あと、やはり夏休み明け少し落ち着いてから、もし調査ができれば、その方がより平日のことを思い出してかけるのかなと思いました。

会長

調査は、これスケジュールがあって、回収してきちんとデータ整理をして、そうした上で統計処理をしていって、場合によってはこれとこれとこれをクロス集計だとかって単純集計から読み取った上で、やっていくんだらうと思うんですが、もうちょっと、これとこれ、たとえばこう答えている子は、他のところではこう答えているんだということは、もう少しこれを調べてほしいとかっていうことはどこかでやらないといけないですね。それでそのまとめが出るのは、これは目標が今年いっぱい。

事務局

そうですね、一応スケジュールとしましては年内にご報告させていただきまして、年明けに市としての方針についても合わせて検討いただきたいと思います。年明けに

は方針の案についてできればと思っております。調査については、このスケジュールで進めさせていただけないと申し訳ありませんが方針まで辿りつけないのかなと。

会長

配るのは何月なんですか。

事務局

9月のあたまですね。2学期始まったぐらいです。

会長

夏休みに配っても雲散霧消してしまっていて調査になりませんので。大体秋の間に分析しようとしたら、9月に回収して、それでぱっと回収できるとは限りませんので、何回か催促したりして、どうしてもこれくらいになっちゃうんですよね。あと親御さんの方の調査についてもご意見があれば。先ほど、家庭での子どもの勉強のところについてももう少し聞いてほしいということで。その他どうですか。親御さん調査の方の最初の方にもね、今回のご質問、質問もあるかもしれませんがということで、種々理解して答えていただきたいと思います。これは、家庭の実態を調査した上で、どういった施策が必要なのかということをはっきりさせるための資料なんだということでぜひ率直に書いていただきたいというのが最初に書いてあります。あなたが言いたくないというようなことを、収入だとかですね、書いていただくというところで、ただもちろん答えたくないところはパスしていただいて結構ですと書いてあります。これは実際の施策をどのぐらい利用するかとかですね、そういうことについて実態を調べたいというのがありますので、かなり規模が増えていきますね。

委員

単純な質問で申し訳ないんですけども、朝と夜のごはんのことだけ聞いていて、お昼を聞いてないのは給食があるからという理解でよろしいですか？私立の学生だとお弁当とか、たとえばコンビニの菓子パンを持ってくる子もいると思いますけど。子どもの生活実態調査の2ページ目の問5です。

会長

大体、孤食調査というか、朝から食事を3食、食べていない子は、大体朝ごはんをパスです。それで、そういうことが問題になって、1970年代に社会問題になったんですけども、朝ごはんを作ってくれたことがない、そのまま学校へ来るという子が意外にいるから、それが問題になって、その世代が親になっていて、やはり自分も朝ごはんの作り方を知らないで、だから朝から食べてない子ども達もかなりいるってことがちょっとわかってきて、それで3食食べているかしらって調査で、朝ごはんを食べているかって聞き方をするとということになりますね。晩ごはんは食べていると思うけれども、実際はひとりで食べているって子どもがある程度いるんじゃないかとか。我々が子どもの時は

家族が全員揃って食べるのが当たり前でしたけどもね、親父だって帰って来ていたし、今は親父も揃って毎日食べるっていうのはかえって少ないのかもしれないですね。それがひとりで食べるのがベースにあると、食事が文化でなくなっているということですよね、そういうのが実際どれくらいあるかっていうことで、こういうひとりで食べているかどうかは晩ごはんを聞いてみて、食事をちゃんと3回食べているかどうかは朝ごはんを食べているか、大体こういう場合そういう聞き方なんですけどね。

副会長

小学生の10ページ目なんですけど、会長がおっしゃったように、問30ですよ。わかる、わからないっていう分け方がちょっと乱暴なのかなと思います。その前のページの25に、授業が嫌い、嫌だ、楽しみではないっていうのがあるんですけど、わからない理由をさっき会長がおっしゃった、頭が悪いっていうふうに特定をすれば、それはわからないんですが、先生が嫌いだからやりたくないからわからなくなっちゃったとか、友達との関係がよくないとかっていうと、これはわからないんじゃないからできないっていうのを分けてやらないといけないのかなと。先生が悪いっていうのも本当に先生がえこひいきをすとか、汚い男は無視すとか、そういうようなことをされると一気にやる気がなくなっちゃってその科目はずっと嫌いになっている子もいますよね。ですからそうするとこれわかる、わかんないっていうのは機会均等じゃなくて、非常に不平等な問題なような気がするんで、やりたくないからわからないのか、会長先生がおっしゃった、頭が悪いという表現はあれですが、必ずこの項目は入れないとちょっとおかしいなというのと、もう1つは学校の枠になかなか収まらない子どもがいる。教室になかなか入れないとか、45分間座ってられないとか、だけれども、色々な知能的なテストをするととっても優れているんだけど、学校の勉強はやりたくないからできないとか、そういう人もいるとすると、この辺大きく分けて、やる気がないからできない、もしくは頭が悪いからわからないとかっていうような部分で、もうちょっとこの辺は精査していただいた方がいいと思います。それからちょっとしたことなんですけど、お弁当を食べる、3ページ問7番、上から5番目のE、コンビニのおにぎり、お弁当って書くと、これは「オリジン弁当」とか「ほっともっと」とかっていうのは排除されちゃいますから、どういふふうには書けばいいのかなと思って、以上です。

会長

お弁当屋やコンビニのってやらないと、お弁当屋はここでは省かれることになりますかね。1個1個そうやって丁寧に見ていくと、これが入らないぞってなりますね。アンケートですからね、全てを丁寧に尽くすことはできないというのはしょうがないですが、できるだけわかりやすいようにすることが大事です。他にありますか、ちょっと確認させていただきですけど、実は次の会は9月ですので、アンケートが実施された後になります。ですから、もう一回持ち帰っていただいて、ぱっと目を通した上で、ちょっとこれ抜けているんじゃないとか、ちょっと大変かもしれませんが答えてもらって、これ書きにくいよとかそういうことがみつかって、ぜひ伝えたいっていう場合は事務局の方に

電話とかメールでお伝えいただけますでしょうか。これだけの時間ですから全部を精査してきれいに、ってなかなかできないんですね。ただ、今これだけのメンバーがいらっしゃいますからね。15倍の目で見たら色んなところが出てきますので、だいぶいろいろな論点が出てきたと思います。ただ、一所懸命作った方としては、一回そういうことは議論したこともたくさんあったと思うんですよね。ただ、こういう形でしか結局、客観性があるためにはこういうのは委員になっている方は選ばれたのかもしれませんが。ですからお気持ちはわかるけれども、これはこう聞いた方が良いと思いますというのもありますし、なるほどこれは少し変えるというところもあるだろうと思いますし、それは事務局の方でまた改めてやっていただけたらいいと思います。ということでお願いを。

副会長

すみません。

会長

はい、どうぞ。

副会長

一番最初のページなんですけど、全部書き終わったら自分の〇〇色の封筒に入れて糊かテープで閉じてください、それをお家の方の封筒と一緒に大きい封筒に入れてって、これ別々になんないんですかね、予算的には。というのは、子ども達はもしかしたらお母さんに見られちゃうんじゃないかっていう恐怖感があって、やはりできれば自分だけで出したいんじゃないかなと思うんですが、予算的に無理なら撤回します。

会長

どうですか。

事務局

バラバラというところで配布した方が書きやすい方もいらっしゃるという部分は確かにあろうかとは思って、何分予算の都合もございまして、返信に関しましては一緒の封筒でという形でさせていただければと考えております。申し訳ございません。

会長

これはわざわざ名前は書かないけれども、この人とこの人は親子、この子どもは一緒に送ってきたのでこっちで同じ親子だってチェックするって、そういう意味ではないんですか。

事務局

やり方としては、そうですね。

会長

だからバラバラ出されたら困るんです。

副会長

なるほどね。

会長

収入の低い家庭の子どもってわかりませんから、だけど、それでセットにすると、統計上はわかることになっています。だからそれは露骨には出さないんですけども、そういった調査の工夫ですよ。親の調査の方でね、ある程度貧困家庭かなってというのが疑われるようなところはある程度出てきますよね、そういう子ども達をサンプリングするっていうことはそれで簡単にできるわけですよ。

副会長

すみません、わかりました。

会長

今、特に思いつかないようでしたら、お願いですけども、一回家で、戻って見ていただいて、こういうところをこうした方がいいんじゃないかとかいうのがあったら、連絡を事務局の方にいただきたいと。最終的にこういう意見をいろいろいただいたので、こういうふうに変えましたとか、私の方と事務局の方と相談させていただいて、内容を反映させていただいて、その辺はちょっとお任せいただけますでしょうか。それでは今日は長い時間をどうもありがとうございました。3つ目の議題についてはこれで終わります。それでは事務局の方から、連絡があります。

事務局

それでは事務局より2点連絡事項がございますが、その前にすみません、マイクの不具合があり、皆さんにご迷惑をおかけいたしまして誠に申し訳ございませんでした。それでは、1点目ですが、本日の審議会の会議録につきましては、事務局の方で作成をいたしますが後日委員の皆様にご確認の依頼をさせていただきますのでよろしくお願いいたします。2点目ですが、次回以降の本審議会の開催につきまして、第3回が9月18日火曜日、第4回が10月30日火曜日、いずれも午後2時からの開催を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。開催通知の方は改めて送付をさせていただきますので、ご承知おきください。事務局からは以上でございます。

会長

それではまだ暑い日が続くと思いますが、くれぐれも熱中症などにならないように。ありがとうございました。